

学長プロジェクト3  
「安全・安心な都市・地域づくり」  
活動報告

学長プロジェクト3

【報告者】

吉竹 弘行

# PJ3 「安全・安心な都市・地域づくり



メンバーは報告者の吉竹以下14名



- 大学の所在地である市川市国府台地区が東葛地域の防災拠点になるために、近隣の大学や病院と連携し、国府台コンソーシアムを形成しています。
- 地域に開かれた大学としての特色を生かした防災教育や自然エネルギー100%大学としての機能や経験を活かし、先進的な安全・安心な地域づくりのための活動に多様な主体と連携して取り組んでいきます。
- 「[住み続けられるまち国府台](#)」から「[学びたいまち、住みたいまち国府台](#)」へ

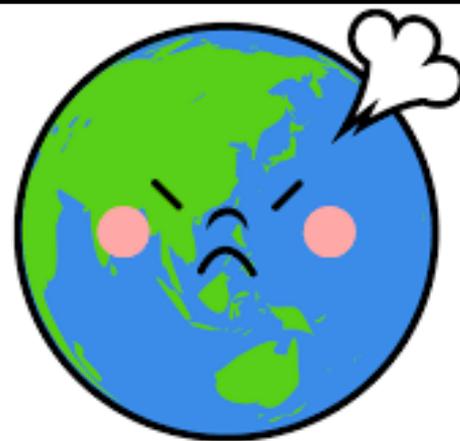
# 不安な地球への対応から 怒った地球へ対応していく時代へ

1972年  
ローマクラブ  
「成長の限界」



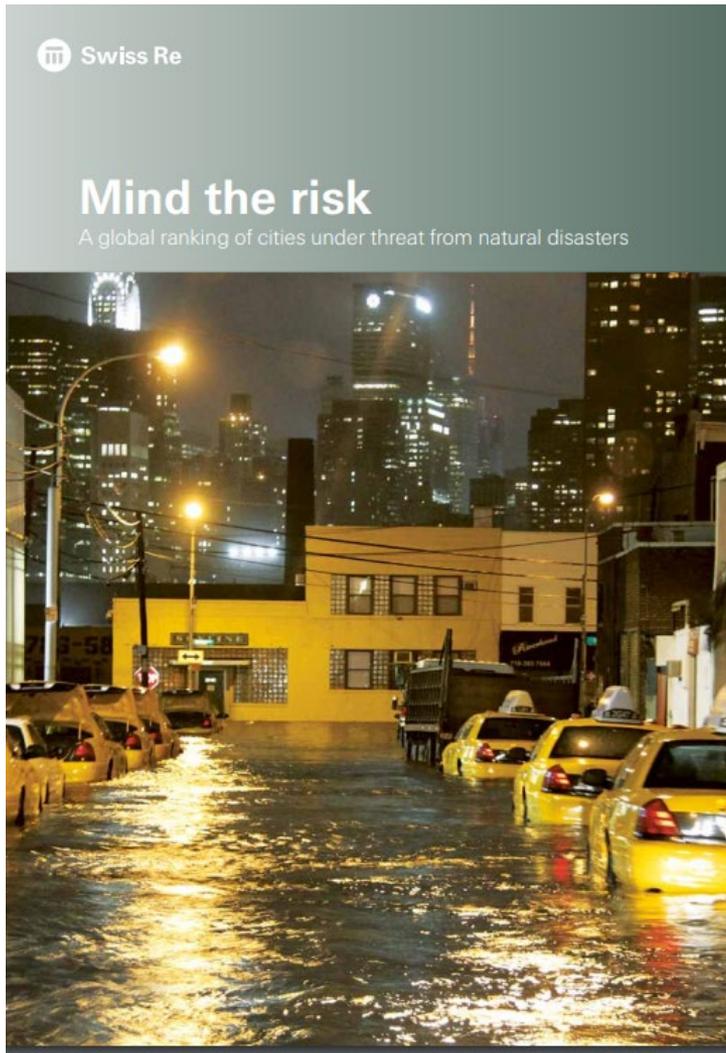
現在のままで人口増加や環境破壊が続けば、資源の枯渇や環境の悪化によって100年以内に人類の成長は限界に達する

2015年  
国連持続可能な開発サミット  
「SDGs」



2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標。17のゴール・169のターゲットで構成、地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓う

# 東京・横浜は世界で最も危険な大都市①



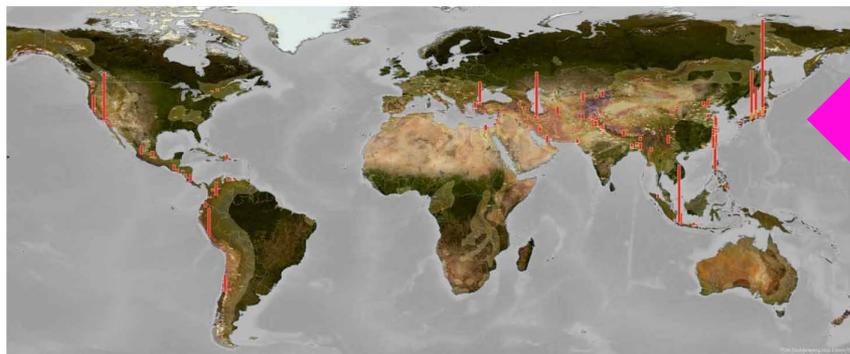
1. 東京・横浜（日本）
2. マニラ（フィリピン）
3. 珠江デルタ（中国）
5. 大阪・神戸（日本）
5. ジャカルタ（インドネシア）
6. 名古屋（日本）
7. コルカタ（インド）
8. 上海（中国）
9. ロサンゼルス（米国）
10. テヘラン（イラン）

出典 Swiss Re（スイス再保険会社）  
「都市地域の最も大きな自然災害リスクは河川の洪水と地震」(© 2014 Swiss Re. All rights reserved.)

[https://media.swissre.com/documents/Swiss\\_Re\\_Mind\\_the\\_risk.pdf](https://media.swissre.com/documents/Swiss_Re_Mind_the_risk.pdf)

# 東京・横浜は世界で最も危険な大都市②

地震波  
地津



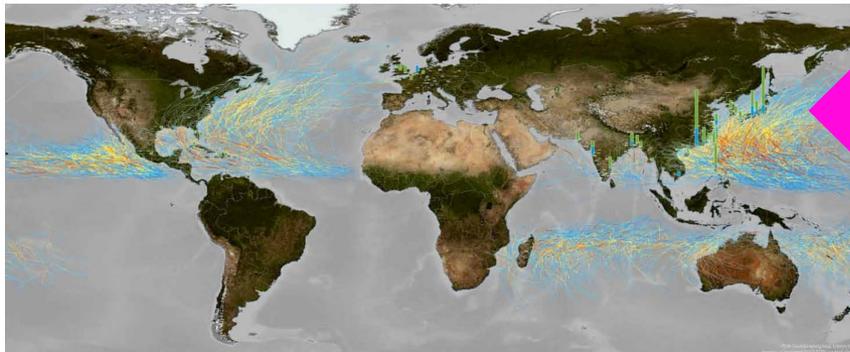
People potentially affected by river floods

川氾  
河氾



People potentially affected by storms and storm surges

低気圧  
暴風



People at risk from meteorological events and coastal erosion

出典 Swiss Re 「都市地域の最も大きな自然災害リスクは河川の洪水と地震」

# 国の考える防災は、自律対応が基本

(図表1)

## 戦後における災害の教訓を踏まえた防災政策の歩みと「防災4.0」

### 「防災1.0」

1959年(昭和34年)

#### 伊勢湾台風

大規模な台風による多数の人的・物的被害



#### 防災に関する統一的な制度・体制の不在

災害対策基本法の制定

- ・中央防災会議の設置
- ・防災に関する総合的かつ長期的な計画である防災基本計画の作成

### 「防災2.0」

1995年(平成7年)

#### 阪神・淡路大震災

住宅の倒壊やライフラインの寸断、交通システムの麻痺、多数の被災者の発生など都市型災害による甚大な被害



#### 政府の危機管理体制の不備、初動対応における課題

官邸における緊急参集チーム設置など政府の初動体制の整備

耐震化が不十分な建築物の倒壊等による多数の被害  
生活再建等を行えない被災者が多数存在

建築物の耐震改修促進法の制定(平成7年)  
被災者生活再建支援法の制定(平成10年)

### 「防災3.0」

2011年(平成23年)

#### 東日本大震災

わが国の観測史上最大の地震、大津波の発生による甚大かつ広域的な被害



#### 最大クラスを想定した災害への備え不十分

大規模地震の被害想定・対策の見直し、「減災」の考え方を防災の基本理念として位置付け、想定しうる最大規模の洪水等への対策(水防法改正)

#### 自然災害と原子力災害の複合災害への想定が不十分

原子力規制委員会発足など原子力政策の見直し(平成24年)

### 「防災4.0」

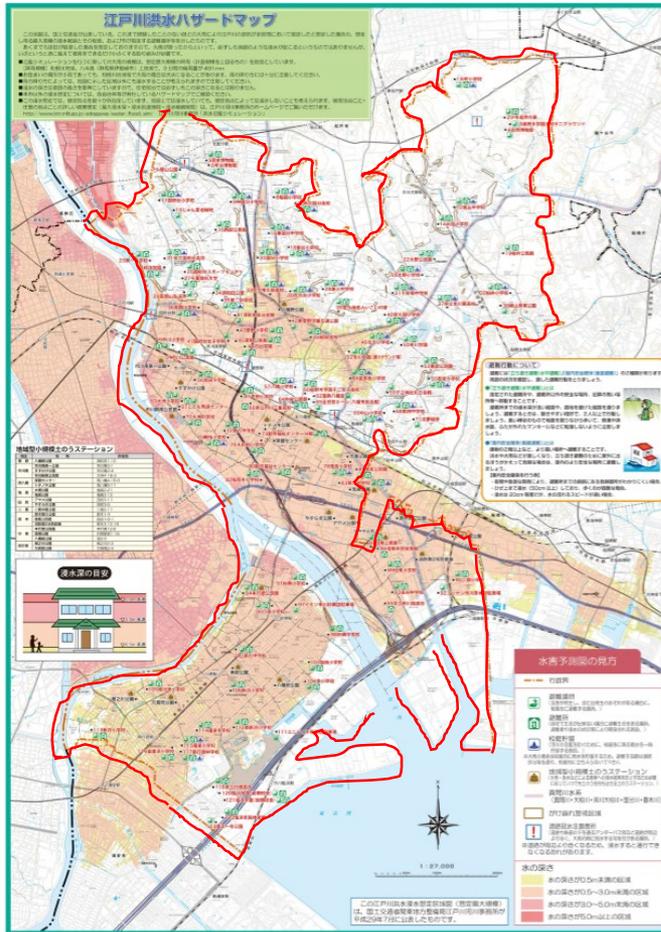
地球温暖化に伴う気候変動がもたらす災害の激甚化



多様な主体が参画する契機づくりとなり、国民の一人一人が防災を「自分ごと」ととらえ、自律的に災害に備える社会に向けた新たな防災のフェーズ(「防災4.0」)へ



# 浸水想定区域内の市川市民は30万人以上

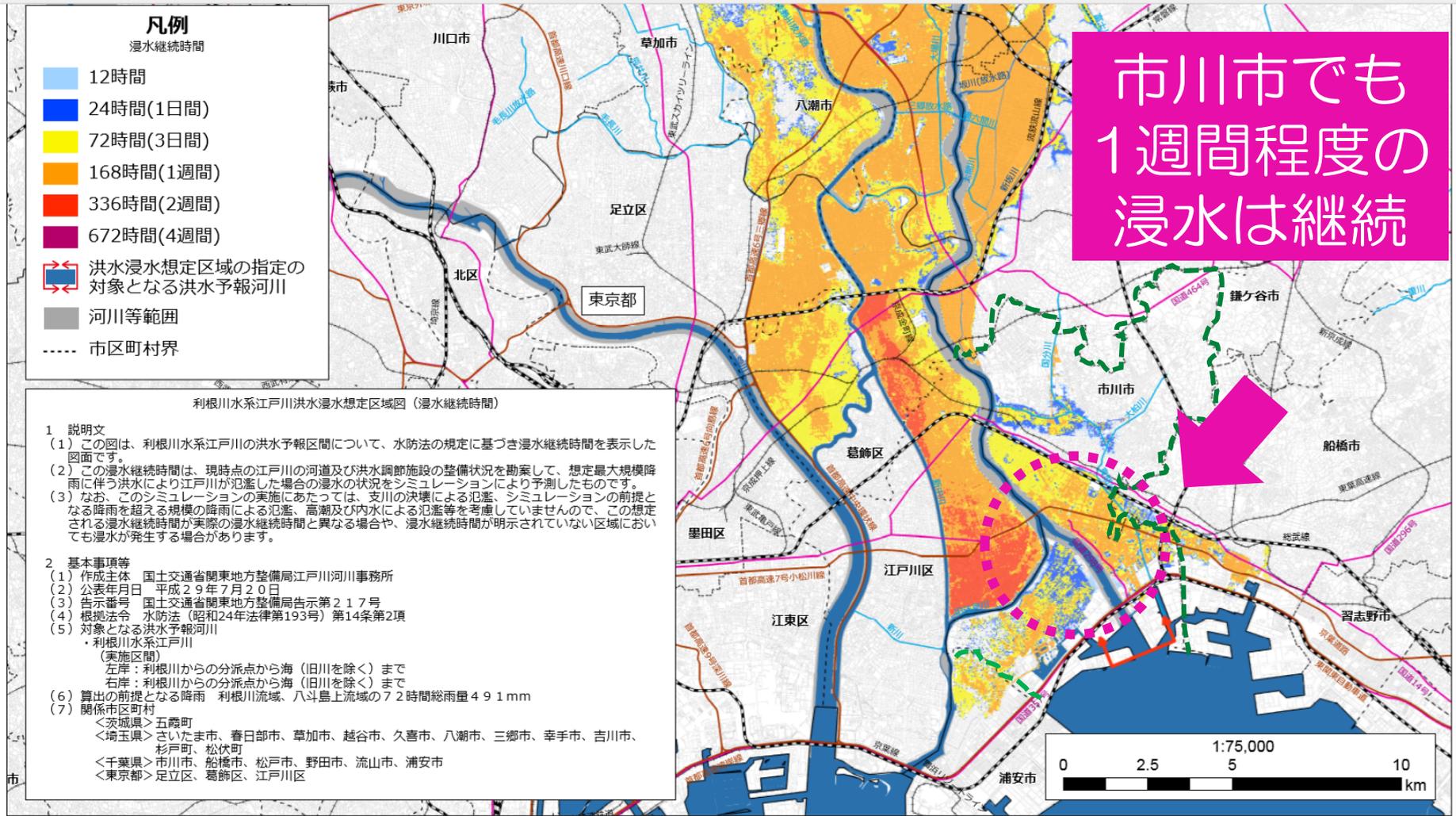


- 江戸川が氾濫した場合、0.5メートル以上の浸水想定区域(着色部)には30万以上の市民が居住。
- うち3歳未満・75歳以上の要避難者が3万人以上。

出典: 市川市ハザードマップ

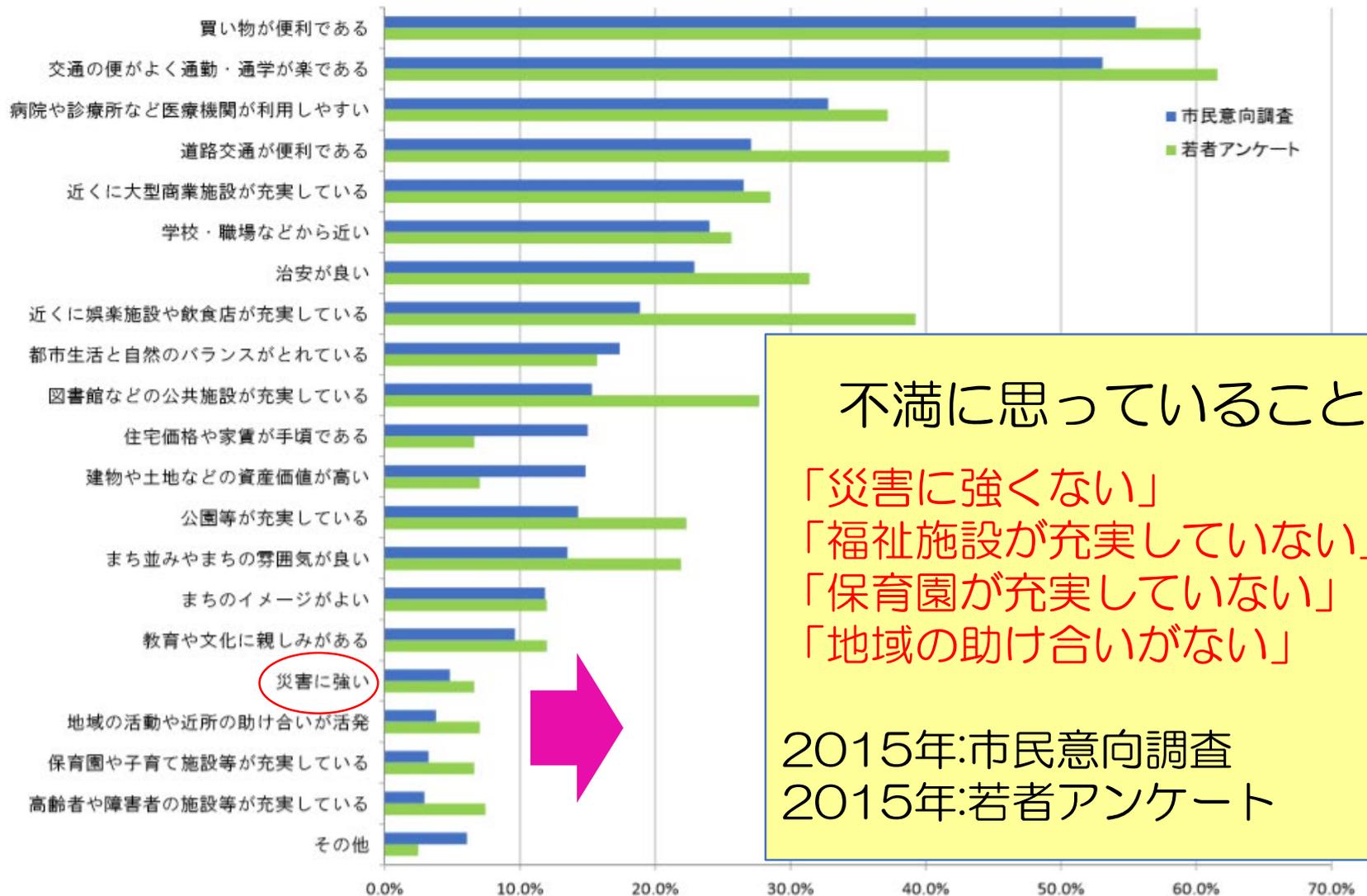
注)人数は住民基本台帳から作成

# 江戸川洪水浸水想定区域図（浸水継続時間） （江戸川河川事務所）

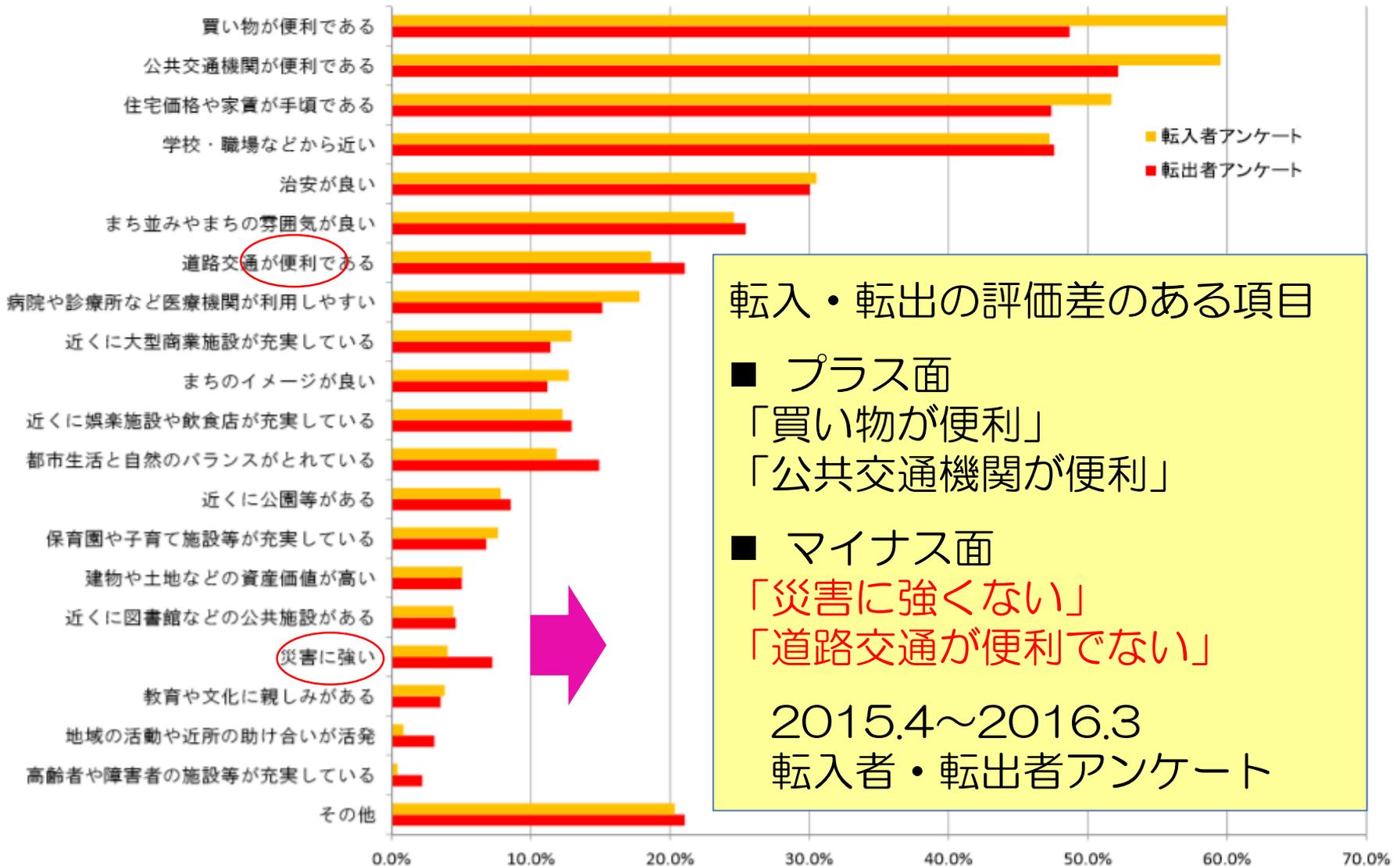


出典:国土交通省ハザードマップ

# 市川市民が市に対して感じていること



# 引っ越しの際に優先して考えた条件



## 転入・転出の評価差のある項目

### ■ プラス面

「買い物が便利」

「公共交通機関が便利」

### ■ マイナス面

「災害に強くない」

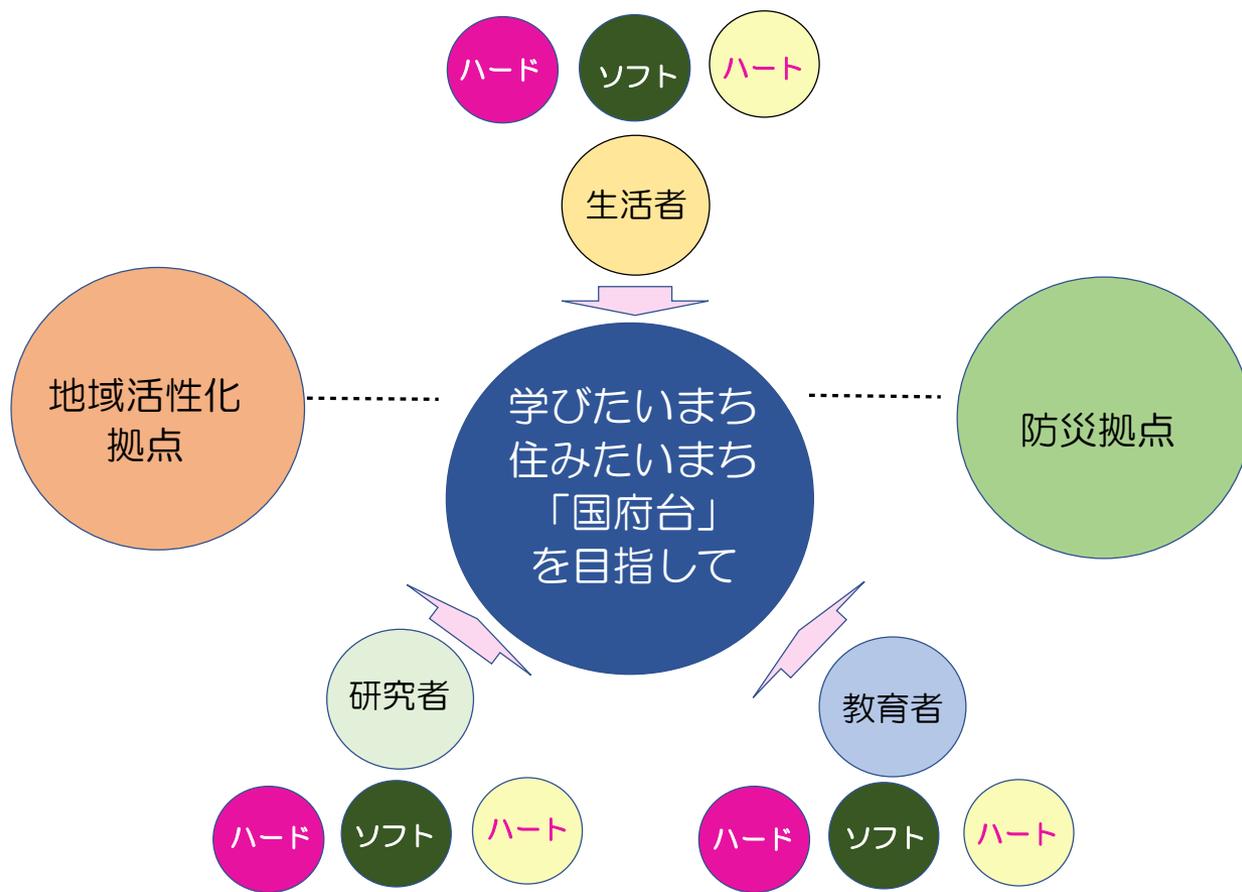
「道路交通が便利でない」

2015.4～2016.3

転入者・転出者アンケート

# 千葉商科大学は何かができるのか？

## 防災のための基盤整備と市民教育



# 4年間の主な活動

- 国府台コンソーシアムによる地域連携  
避難場所として機能するための協議、コンソーシアムフォーラム(2回)  
メンバー施設の相互利用(国府台高校生の図書館利用)、歴史探索ほか
- 防災フォトログ・サバイバルキャンプ等による楽しい防災教育  
UDを拠点とした他大学も参加するサバイバルキャンプ実施ほか
- CUC100ワインプロジェクト/ソーラーシェアリング研究会  
クラウドファンディングによる資金調達と事業実施、UD残材リサイクル  
蓄電システム検討ほか
- 災害時車両利用リスク対応に関する地域防災教育  
市川市・自治会との関係による住民意識調査、CUC公開講座ほか
- 学内防災体制整備への助言  
防災マニュアル、市川市との包括協定見直し協議、生協との防災協定ほか
- 学会活動を通じた持続可能なまちづくり研究と広報  
不動産学会WS(3年継続)・シンポジウムの開催

# 国府台コンソーシアム

(会長 原科千葉商科大学学長、副会長 岸田和洋女子大学長)

「国府台コンソーシアム(2017年12月11日)」

メンバー	和洋女子大学
	和洋国府台女子中学校高等学校
	千葉商科大学
	千葉商科大学附属高等学校
	東京医科歯科大学教養部
	千葉県立国府台高等学校
	市川市立第一中学校
	市川市立国府台小学校
	筑波大学付属聴覚特別支援学校
	国立国際医療研究センター国府台病院
オブザーバー	市川市役所

- 防災分科会  
避難場所として機能するための協議
- 地域交流分科会  
メンバー施設の相互利用(国府台高校生の図書館利用)

## 国府台地区の防災ポテンシャル



10機関の連携で防災能力強化と交流深耕を目指す

# サバイバルキャンプ・プロジェクト

防災に対する The University DINING の計画

## ◆72時間サバイバル教育プログラム

災害時に生き延びるために必要なスキルを学ぶための8プログラム



① ファイヤー  
寒さをしのぎ、調理にも使う「火」を、災害時にはどのようにして使用・管理するのか、その具体的な方法を学びます。



⑤ SOS  
災害時に救助隊にいち早く発見してもらうためにはどのようにすれば良いか、sosの方法を学びます。



② ウォーター  
災害時に必ず必要になる「水」。どうやって水を確保し、安全に管理するか、その具体的な方法を学びます。



⑥ ファーストエイド  
ケガをした場合の止血、応急手当の方法をはじめ、熱中症、低体温症、感染などの二次災害を防止する方法を学びます。



④ シェルター  
災害時に雨露・寒さ・暑さをしのぐために必要な「住」環境をどのようにして確保するか、具体的な方法を学びます。



⑦ ナイフ  
災害時に役立つ道具の「ナイフ」。安全に使いこなせるよう、体験を通じてさまざまな使用方法を学びます。



④ フード  
限られた環境でどのようにして食事の確保を行うのか、ある物を工夫しておいしく食べるノウハウなどを学びます。



⑧ チームビルド  
災害を乗り越えるために必要な避難場所でのチームづくりと、そこで必要な役割や行動とは何かを学びます。



### ◆公認サバイバルマスター

災害時に自分を守り、他人を助ける知識と技術を学んだ証。災害時にはマスターに避難所や現場でスキルに合わせて活躍するミッションが与えられるという仕組みづくりをします。さらに自分自身のスキル向上に取り組み、自分の地域において子どもたちが継続して学習していくサポートをしていきます。



(72時間サバイバル教育協会HPより)



学生・地域住民への楽しい防災教育による防災文化定着

# CUC100ワイン・プロジェクト



入口



どろんこツズ



地域農業振興・自然エネルギー事業振興と地域防災への貢献

## 今後の取り組み(長期的方向性)

- 国府台コンソーシアム(避難場所対応の検討)
- 市民教育関連の充実
- 地域分散型エネルギーシステムによる防災力強化
- 大学アシスタンスを活用したプロジェクトの推進